

2007 Global Summit of Women (Berlin, Germany / June 14-16th) 【JKSK・報告レポート】

2007年9月21日
文責：大槻 舞理子

<Introduction>

Global Summit of Women 2007が6月14日～16日の三日間、ドイツ・ベルリンで開催されました。

“Global Summit of Women”とは、ワシントンに事務所を持つ国際NPOによって主催される、「女性による」「女性のための」全世界規模のサミットです。多くの年数と実績を重ね、今や各国の女性閣僚、著名実業家、社会起業家、非営利団体等、多様なバックグラウンドを持つ人々が集う大規模なサミットへと成長しています。その規模の大きさ、参加者の意識／質の高さから、通称『女性版 ダボス会議』とも呼ばれています。

今年度は17度目の開催、90カ国以上の国々から、総勢1000人近くの参加者が集いました。本年、私はJKSKの支援を受け、このGlobal Summit of Womenに初参加を致しました。三日間のプログラムを通じて、全世界の女性が、切磋琢磨し合い、ネットワークを広げることによって、未来への道を一步切り開くダイナミックな様子を、このレポートを通してご報告したいと思います。



▲サミットの様子▼



<プログラム概要> ※下記にはセッションのタイトルとスポンサーのみ記載 (詳細は右記URLをご参照下さい。www.iegd.org/eventos/programwomen.pdf)

6月14日(木) サミット初日

Opening Ceremony
Welcoming Reception & Dinner

6月15日(金) サミット2日目

朝食 (Networking Breakfast)
Plenary Sessions
(各プレゼンターによるプレゼンテーション/スピーチ/トークセッション等)
"European Women : An Economic Profile " by McKinsey & Co.
"Values' Profile of European Women" by Gfk Roper
"Women Directors of the Fortune Global 200" by Global Summit of Women
"Report from the Ministerial Roundtable" Moderator : Gerri Elliott

昼食 (Networking Lunch)
"Dialogue with Women Enterprise Leaders" by IBM

Breakout Sessions
(テーマ別に分かれてプレゼンテーション/ディスカッション)
① " Entrepreneurial Track : Using Technology to Build Your 'Brand' "
② " Microenterprise Track ; Marketing Microenterprise Products "
③ " Leadership Development Track :
Beyond Networking : Marketing Yourself Internally Within a Large Corporation "
④ " Issue Track : Combating the Business of Trafficking : Public/Private Strategies "

Breakout Sessions
(テーマ別に分かれてプレゼンテーション/ディスカッション)
① " Entrepreneurial Track : Securing Corporate Contracts :
Best Practices in Corporate Supplier Diversity Programs "
② " Leadership Development Track ; Managing a Long-Term Business Career "
③ " Issue Track ; Leader's Voices in the Work/Family Debate "
④ " Special Session ; YOUTH FORUM – Navigating the 21st Century Workplace "

ディナー (Global Women's Leadership Awards and Gala Dinner)
(本年のGlobal Summit of Women におけるLeadership/Entrepreneurs Awardの表彰者を発表)

6月16日(土) サミット3日目

朝食 (Networking Breakfast)
Plenary Sessions
(各プレゼンターによるプレゼンテーション/スピーチ/トークセッション等)
" Corporate Social Responsibility Across Borders : Best Practices " by Office Depot
" Women CEO Forum : The 21st Century Marketplace " by Hudson

昼食 (Networking Lunch)
" Defining Diversity in a Competitive Global Economy " by Pfizer

Breakout Sessions
(テーマ別に分かれてプレゼンテーション/ディスカッション)
① " Entrepreneurial Track : "Growing" the Next Generation of Women
② " Microenterprise Track : New Ways of Financing Microenterprises "
③ " Leadership Development Track : Developing Win-Win Negotiating Skills "
④ " Issues Track : Women and Corporate Boards – A Progress Report "

Breakout Sessions
(テーマ別に分かれてプレゼンテーション/ディスカッション)
① " Entrepreneurial Track : Learning From Business Downturns "
② " Leadership Development Track : Managing vs. Leading "
③ " Issues Track ; Women's Invention and Innovations for a Better Competitive Market "

Closing Ceremony by Digene Corporation

Closing Reception by Fedex, Accenture and MCM

<サミットの3つの特徴>

① 多岐にわたる人材の集い

本サミットの最大の特徴は規模の大きさであり、参加者の多様性といえるでしょう。

その象徴として、一つ印象に残っているのは、サミットが開始する際のOpening Ceremonyでの代表者のスピーチの一言。

「現在、ドイツでG8サミットが開催されていますね。
…しかし、会場にお集りの皆さん、周りを見渡してみてください。
どれだけの国から、どれだけの人が集まっているか。
ここは、参加国は90以上、参加者は約1000人。
女性会合として世界最大規模であり、G8など目ではない、『G90サミット』なのです！」

その発言の直後、会場は大きな拍手と歓声にわき、ホール全体が大きく大きく揺れ動きました。「これが、Women's POWERなのだ」と肌で感じた瞬間でした。

このサミットの規模の大きさは参加国・参加者の数字からも伺うことができるかと思いますが、参加者の多様なキャリアやバックグラウンドも、また特筆すべき点の一つでしょう。閣僚、大企業の経営者、起業家、NGO/NPOの運営者、学生等、参加者は多岐にわたる背景と経験をお持ちです。20代から70代まで、と年齢層も様々で、世代を超えて、女性が集い、自身の経験を共有することで他者の成長を促す、という姿勢はすべてのセッションに共通したものでした。

また、企業から派遣された女性社員が多く見受けられたことも、今回のサミットの特徴として挙げられるのではないのでしょうか。例えば、今回はIBM、Microsoft、Johnson & Johnson、DaimlerChrysler、Office Depot、Accenture、Deutsche Telekom、GlaxoSmithKline、GE、McKinsey、Cisco systemsなど、大手企業がスポンサーとしてサミットを盛り上げていました。

これらの企業からは多くの女性社員がサミットに参加し、中でもPfizerからは総勢103名の社員がサミットに参加。会社を挙げてこのようなサミットへの参画を果たし、社員の啓蒙活動を精力的に行っていることは、企業活動として大変意義があり、日本企業も多いに見習うべき点ではないかと考えました。



▲各国から集った閣僚、政府関係者の方々

② 様々な関心分野に対応したプログラム

2日目から開催された全体会議・分科会では経験豊富な女性たちによるプレゼンテーションやトークセッションが執り行なわれました。企業のCEO、各国の閣僚等、世界を代表する女性リーダー達による共同セッションは、各々の成功体験から失敗体験、苦労話や今後の抱負まで、スピーカー達の個性が溢れるものでした。

共同セッションでは、綿密なデータ収集によって作成された、全世界の「女性のあり方」を検証したプレゼンテーション、政府関係者による女性支援やダイバーシティ政策の立案・施行に関する経験共有、CEOや大企業の女性管理職、社会起業家による経営論、組織論、ライフ&ワークバランス等、様々な議題を取り上げたパネルディスカッション等が催されました。セッションの内容は、それぞれ分野や対象は違えど、視野広く様々な人たちとの連携によって、参加者を感化し、成長へと導いてくれるメッセージ性の強いものでした。官、民、NGO/NPO、学生等…各々の専門性を活かしながら工夫を凝らしたプレゼンテーションやスピーチによって、参加者同士が切磋琢磨されていく様子が顕著に見受けられました。

他方、分科会は下記4つの観点からテーマを設定されており、こちらは3~4人のスピーカーがモデレーターとともにパネルディスカッションを行う形式で開催されました。4つの観点とは、①起業家向け、②中小企業向け、③リーダーシップ育成、④その他課題 というもの。この分科会には、参加者が各々関心があるテーマを選択し、好きなセッションに参加できるようになっています。あまりにも興味深いトピックが多いため、どの分科会に参加をすべきか私自身非常に迷いましたが、以前から関心を持っていた「起業」というテーマに主眼をおいて参加して参りました。起業家向けのセッションでは、既に独立・起業し、企業を成功へと導いている現職の女性たちによって、プレゼンテーションやパネルディスカッションという形式でざっくばらんにディスカッションが行われました。起業に至るまでの体験談・成功談・失敗談はもちろんのこと、企業の収益を上げる工夫や社員のモチベーションアップをはかる手段、会社を倒産させてしまった経験談など、話題は多岐にわたり終始刺激的かつ興味深いストーリーに溢れていました。参加者の真剣な眼差しや積極的に質問をする姿勢、スピーカー・モデレーターの力強いスピーチや気の利いたジョーク等、活発な議論の中でも、どこか暖かみのある雰囲気は失われることなくプログラムが終始取り進められたことも、印象的でした。

③ 参加女性達の意識の高さ、意欲の強さ

このサミットには、三日間を通じて様々なタイミングで参加者の女性同士で「ネットワーキング」を行う機会があります。例えば、朝食、昼食、ディナー中のフリータイムはもちろん、ちょっとした休憩時間においても、1000人の参加者達は偶然同じテーブルについて女性同士で自己紹介をし合い、相手の活動や興味関心事に耳を傾けます。

それぞれの女性が皆、目的を持ってこのサミットに参加しています。
「自身のネットワークを広げたい」
「ビジネスパートナーを見つけたい」
「企業活動を有意義にするためのTIPSをつかみたい」
「自分がデザインした商品を世界中の女性達に知ってもらいたい」
皆様々な意識の元を集っていますが、共通しているのは意識の高さ、意欲の強さです。

意欲ある女性同士の会話は、熱気をおび、ネットワーキングの時間はかつてない盛り上がりを見せます。対話する相手が自分とは違う人種、国籍を持ち、様々な目的や興味関心を持っているために、一度話し始めると会話は尽きません。会場の端々で、女性同士が会話を弾ませ、握手をし、活発に語り合う様子が見受けられます。知人の話によると、このサミットでの出会いをもとに、実際にビジネスを始めた方も大勢いらっしゃるようです。感度の高い人々が世界中から集まっているのですから、まさに、「チャンス」の場といえるでしょう。

私自身、会話をした人数や国は数えきれないほどです。まっすぐに相手の目を見て話をし、力強く暖かい目を持つ女性達。育った環境は違えど、何か共通した、似通った「血」のようなものが、1000人の参加者全員に共通して流れているような感覚に陥りました。

しばしば、「モチベーションアップをはかる方法」について考えることがありますが、このような意欲的な女性集団の中に身を置くと、モチベーションが上がりませんし、自分も明日からではなく、今日から、ポジティブに考えよう、アクションを起こそう、と思わずにはいられません。意欲的な人々の中に身を置くこと、これが前向きな姿勢を持つ一番の近道ではないか、と考えました。

<所感>

サミットが終了し、はや3ヶ月の月日が経ちます。
私は日本に戻り、いつも通りの生活に戻っておりますが、
サミット以前と異なる点は、「ネットワークが格段に広がったこと」です。
三日間のプログラムの中で、多くの参加者と名刺交換を行いました。
通常、名刺交換だけではなかなかコンタクトを取り続けられないケースもあるのですが、
サミットで出会った方々とは、その後も国境を越えてコンタクトを取り合っています。
10月にはサミットで知り合ったバングラデシュ出身の女性ファッションデザイナーが日本を訪問するのを機に
再会する予定となっています。
出会い、知り合った期間は短けれど、あのサミットでの出会いは、
参加者同士で共有できた「女性同士の熱さ」が絆として今日も残っているのではないかと感じます。

各国の代表としてスピーチを行っていた女性リーダー達の姿を思い返し、サミットの三日間を振り返ることがあります。
スピーカーの女性達は、「成功者」の姿そのものでしたが、
現在の自身のキャリアに至るまでの決意、体験、工夫や苦労は多様であり、夢や目標を熱く語る姿には、
これまで世間を巻き込み、イノベーションを起こし、人々をリードしてきた自立した女性たちの
人間らしさが表れていました。そんな彼女たちを見ながら、感じたことがあります。
それは、輝き続けることができる人に必要な要素は、
「自分自身の過去をポジティブに捉え、周囲に還元できるような前向きなマインドを持つ」ということです。
これまでのキャリアを形成し、成功のステップを上り続けることには多くの困難があったようです。
その困難を、スピーカー達は、参加者と共有し、乗り越えた自分を見せ、示すことによって、
「どんな困難も、前向きに取り組めば克服できる」というメッセージを身をもって発信しているようでした。

また、スピーカーや参加者に共通していたのは、各々が発信するメッセージを通して、女性たちに「エールを送っている」こと。
自身の体験を語ることで、少しでも周囲の学び・気づきに貢献し、役立ちたい、という姿勢を強く感じ取ることができました。
その協力的、かつ柔軟な態度は、リーダーシップを発揮するにあたって不可欠な要素かもしれません。
私自身はまだ社会人経験も浅い立場ですが、こうした先輩たちの姿を目の当たりにすることで気づいたことは、
日々の業務活動に忙殺されるのではなく、また、ただ自分だけが成長することを意識するのではなく、
「自分の成長体験を後輩や後世の人々に教え、伝えること」ができるように意識しながら、
ステップアップを重ねていく姿勢が非常に重要だということでした。
このスタンスは、全世界に共通して言えることかもしれません。



▲ Gala Dinnerでの一枚。韓国、タンザニアの女性達と。
▼ 本年のGlobal Women's Leadership Awardを受賞したのは
ラトビアの女性大統領



<最後に>

サミットの2日目に、全世界の女性の位置付けを検証するために、種々データを取りまとめて数値化、図表化したプレゼンテーションが実施されました。その発表によると、日本には世界中で高い評価を受ける優良企業が多数存在するものの、その中で女性が代表取締役を勤める割合は全世界の先進国の水準と比較して非常に低い、とのこと。

日本という国で、女性の社会進出が他先進国と比較して遅れていることは周知の事実です。しかしながら、私が着目した点は、日本の女性の社会進出「成長率」が、他国と比較して極めて遅いのではないかと、という点です。

例えば、優良企業における女性経営者の割合を数値で見ると、もちろん日本は現状では先進国の中でも極めて低い位置にいることは言うまでもありません。2006年から2007年の数値の変動を見ても、日本にはさほど成長は見られませんでした。一方で、昨年日本とほぼ同位置にあった国々は、2007年に至るまでに、若干ながらも女性経営者の割合を改善させていることが、データから発覚しました。

この差はどこにあるのでしょうか？

他国が、着々と女性のリーダーを社会に輩出している現状に対し、日本はなぜ、変わらないままなのでしょう？ サミットでこの疑問を問いかけたとき、日本と他国の女性支援政策の違いが一因である、というコメントが得られました。日本では、女性の社会進出に対して、政府の取り組みが他国と比較すると未だに不十分、ということでしょうか。

2007年のサミットには、日本人が約15人ほど参加していた模様です。皆、素晴らしい人格と専門性を持った、国際感覚に富んだ人物でした。彼女達に出会えただけでも、サミットに参加する意義があったと思わせてくれる程、優秀な方々でした。日本には、彼女達のような能力の高い人材がいるにも関わらず、他国と比較して優秀な女性達の社会進出や発言権を持つ場が限られているとすれば、将来、日本が国際社会の中で競争力を失っていくことは明白だと考えます。

では、どうすればいいのでしょうか？ 政府の政策が改善されるまで待っているだけでは、時間を無駄に過ごすだけでしょう。どうすれば、日本の女性達も、サミットでのスピーカー達のように、世界中の人々に対して国の代表として「発信する」場を増やしていけるのでしょうか？ その答えは、私の中でも、まだ見つかっていません。ただ、この問いは、2007年サミットにおいて、私自身の大きな問い／課題として強く胸に残りました。

次回、2008年のサミットはベトナムで開催される予定です。ここでは、女性達のどのような成長を目にすることができるのか、今から楽しみで仕方ありません。また、この時まで、どうすれば日本が国際競争力を維持するために、女性がリーダーシップを発揮しやすい社会を形成していけるのか、一歩ずつ、答えの糸口をたぐり寄せていきたいと考えています。

将来にわたって、末永く、全世界の女性達が成長し続け、社会に貢献し続けられることを願って、本レポートを終了させていただきます。



▲ 来年度開催の地、ベトナム女性達のWELCOMEセレモニー
▼ ともにサミットに参加した日本人女性たち

